

(1) 甲府市のあゆみ

市域に人々が生活を開始したのは、約2万7千年前の旧石器時代のことで、稲作農耕が始まる弥生時代になると、低湿地に集落が営まれ、盆地底部の開発が始まりました。

古墳時代の4世紀後半には、曾根丘陵にヤマト王権の影響を受けた前方後円墳として有名な甲斐銚子塚古墳などが出現し、その後、中小規模の古墳築造が盆地一帯に拡大します。6世紀後半に築造された、巨大な横穴式石室を誇る加牟那塚古墳の存在は、大きな経済力を持った政治勢力の台頭を示しています。

平安時代の末には、武田信義が甲斐源氏を統率し甲斐の支配を固めますが、市域にはその子一条忠頼と板垣兼信が館を構え、源頼朝の源氏挙兵にも参加して活躍し、鎌倉幕府の創設に寄与しました。

武田氏が戦国大名として雄飛する基盤を築いたのが信玄の父信虎で、永正16(1519)年につつじが崎に居館を築き、ここを本拠地として城下町の建設にも着手したことから、甲斐の府中「甲府」が誕生しました。武田信虎、信玄、勝頼と武田氏の勢力伸張に伴い、甲府は東国でも有数の規模の城下町に発展しました。特に信玄は、水害から甲府盆地を守る大規模な河川堤防の建設や甲州金を用いた貨幣制度の創設、領国統治のための法律「甲州法度之次第」の制定、信濃善光寺の甲府移設による城下町の拡大等を行って甲斐国を豊かにしました。

近世を通じて甲府城下町が最も繁栄したのが柳沢氏の時代です。それまで甲府城主は徳川家一門に限られていましたが、将軍綱吉の側近柳沢吉保が甲斐を受封して城主となり、その子吉里と父子二代にわたって城下町の整備が進められました。

その後、甲斐は幕府の直轄地となり、甲府城には勤番支配が置かれ幕末を迎えます。



武田信虎公の像



武田信玄公の像

甲府に市制が施行されたのは明治22(1889)年で、全国で34番目、関東では横浜・水戸・東京に次ぐ4番目です。当時の人口は3万1千人余りでした。

明治36(1903)年には中央線甲府・八王子間が、明治44(1911)年には同線の全線が開通、昭和3(1928)年には身延線の全線が開通し、交流が盛んになりました。

昭和12(1937)年には里垣、相川、国母、貢川の4か村を、昭和17(1942)年には千塚、大宮の2か村を合併し、市域を拡大しました。

昭和20(1945)年7月の甲府空襲は市域の74%を焦土と化し、甲府の古き良き時代の面影は失われてしまいましたが、終戦直後には戦災復興局が設置され、市民一丸となって、郷土の復興に立ち上がりました。

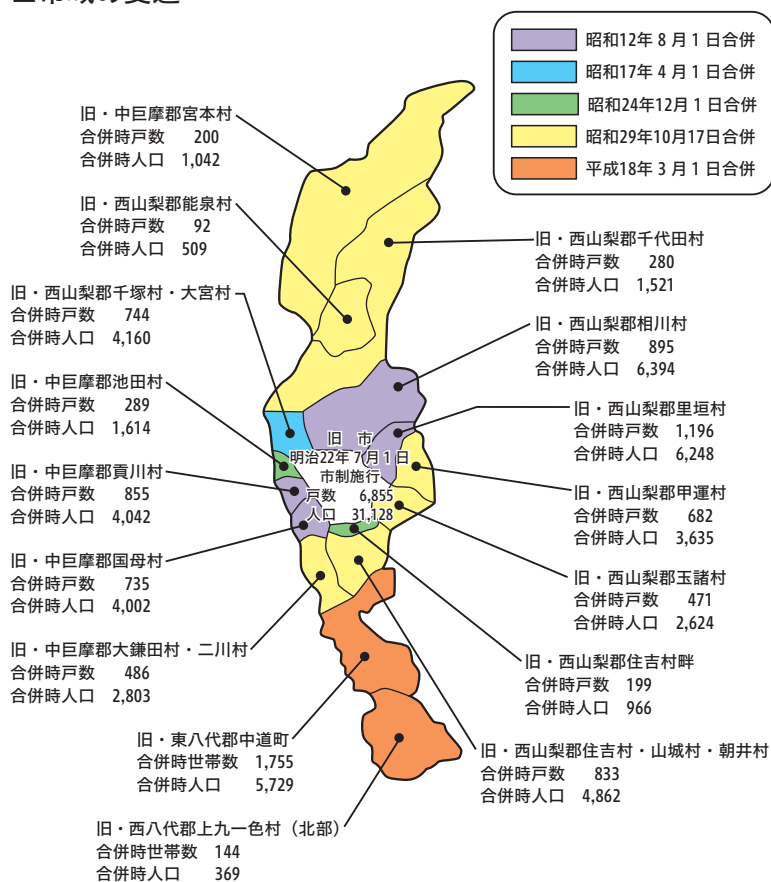
昭和24(1949)年には池田村、住吉村畔を、昭和29(1954)年には山城、住吉、朝井、二川、大鎌田、甲運、玉諸、千代田、能泉、宮本の10か村を合併し、人口は142,807人となりました。

その後、中央線の複線化、昭和57(1982)年の中央自動車道の全線開通などにより首都圏の中核都市として発展を続け、平成元(1989)年には市制施行100周年を迎えました。

平成12(2000)年には、より主体的にまちづくりに取り組むため特例市に移行、平成18(2006)年には中道町、上九一色村北部との合併を行い現在の市域を形成しており、平成26(2014)年に着工されたリニア中央新幹線の建設は、新たな発展の契機となることが期待されています。

令和元(2019)年には、開府500年という歴史的な節目を迎えたほか、更なる市民生活の質の充実を目指し、中核市に移行しました。令和5(2023)年には、県内9市1町で「やまなし県央連携中枢都市圏」を形成し、令和7(2025)年には新たに2町が加わり、構成自治体との広域的な事業展開に努めています。

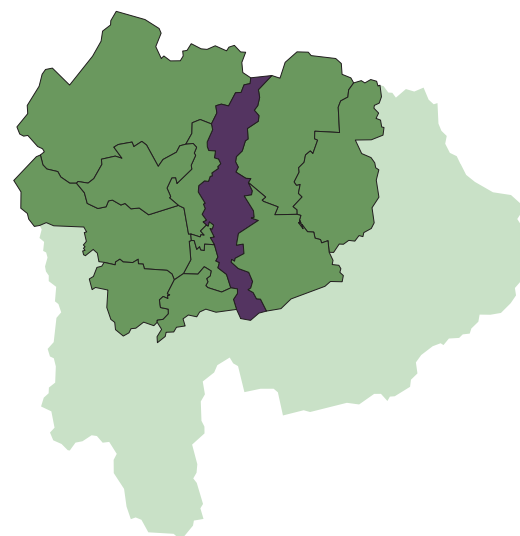
■市域の変遷



■やまなし県央連携中枢都市圏

(愛称：県央ネットやまなし)

甲府市を含む12市町が各地域の個性を互いに尊重しながら連携し、魅力的な圏域づくりに向けて様々な取組をしています。



圏域人口：610,350人

資料：山梨県住民基本台帳人口(令和7年12月31日現在)

圏域面積：2,278.51km²

資料：令和6年全国都道府県市町村別面積調(国土地理院)

(2) 位置

甲府市は、首都東京から西へ約100kmの距離にあり、山梨県のほぼ中央部にあります。

山梨県は、首都圏整備法上の首都圏に位置付けられており、本市は、社会的・経済的に首都圏との結びつきが強く、JR中央線、中央自動車道及び国道20号（甲州街道）で結ばれるなど、歴史的にも交通の要衝を担ってきました。



(3) 地勢

甲府市は、南北に細長く、市域は東西23.1km、南北41.6km、面積212.47km²です。市の最北の山岳地域には八幡山、金峰山、朝日岳など2,000mを超える峰々が東西に連なり、南には王岳、釈迦ヶ岳がそびえています。市街地は、甲府盆地の中心に位置し、おおむね平坦ですが、北に高く南に傾斜しています。北に八ヶ岳、南に富士山、西に南アルプス連峰を望み、市内を荒川や笛吹川が貫流する自然豊かな土地柄です。

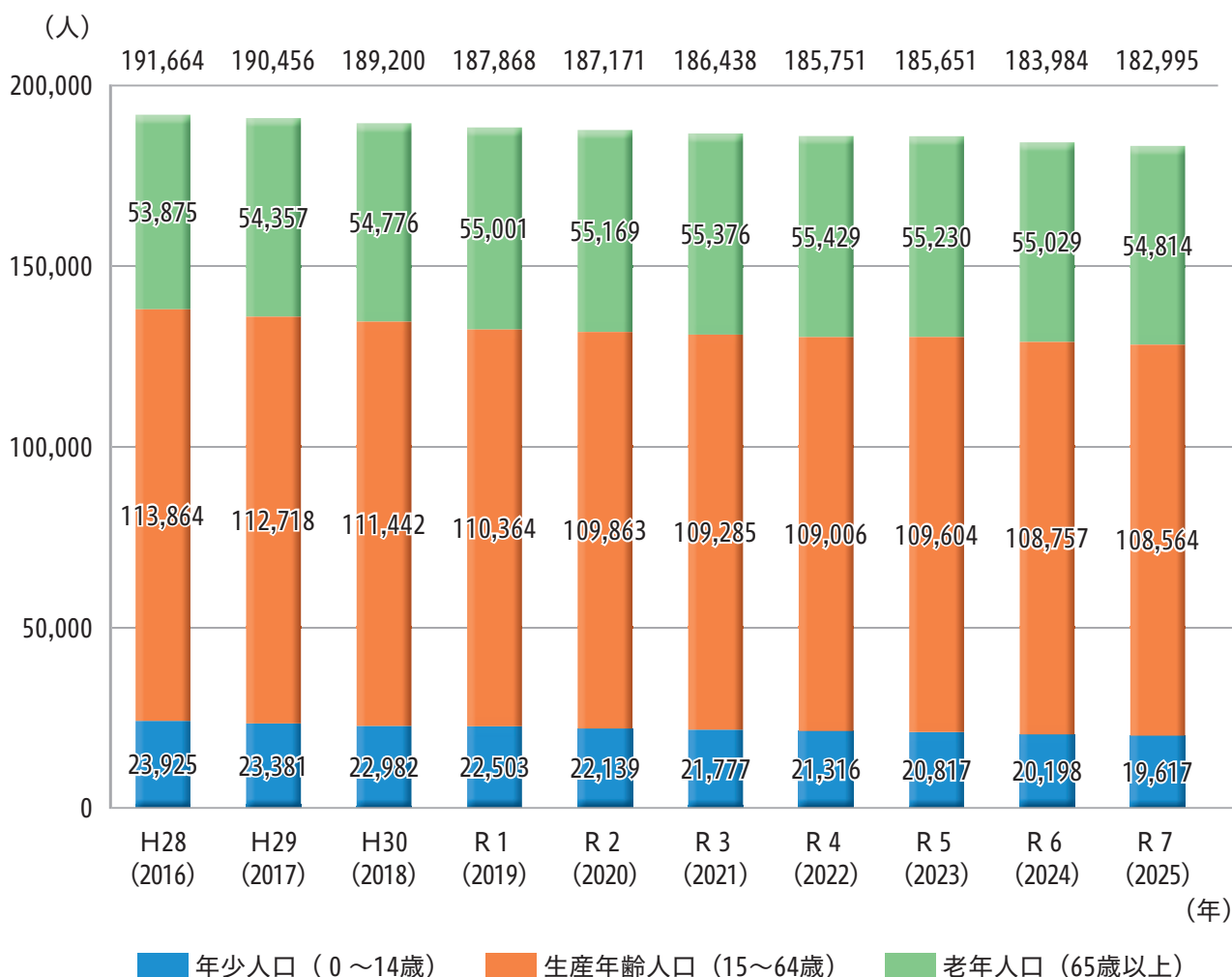


(4) 総人口の推移

甲府市の総人口は、昭和60(1985)年に202,405人（昭和60年国勢調査人口）とピークを迎え、その後減少に転じ、令和7(2025)年3月31日現在で182,995人となっています。

直近10年間では、8,669人減少しており、これを年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が4,308人、生産年齢人口（15～64歳）が5,300人減少した反面、老年人口（65歳以上）は939人増加しています。令和5(2023)年以降は老年人口についても減少しており、人口減少が進行しています。

■総人口の推移



資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）